

別添1 新水質基準項目等の検査における、給水栓以外での採取の可否、検査の回数、検査の省略の可否

番号	項目名	給水栓以外での・水の採取	検査回数	検査回数の減	省略の可否
-	色、濁り及び消毒の残留効果	不可	1日1回以上	不可	不可
1	一般細菌	不可	概ね1月に1回以上	不可	不可
2	大腸菌				
3	カドミウム及びその化合物	一定の場合 ^{注1}	概ね3月に1回以上	注2の通り	注3の通り
4	水銀及びその化合物				
5	セレン及びその化合物				
6	鉛及びその化合物	不可			注4の通り
7	ヒ素及びその化合物	一定の場合 ^{注1}			注3の通り
8	六価クロム化合物	不可			注4の通り
9	シアン化物イオン及び塩化シアン			不可	不可
10	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	一定の場合 ^{注1}		注2の通り	不可
11	フッ素及びその化合物				注3の通り
12	ホウ素及びその化合物				注3の通り（海水を原水とする場合は不当該事項についての過去の検査結果が基準値の2分の1を超えたことがなく、かつ、原水並びに水源及びその周辺の状況（地下水を水源とする場合は、近傍の地域における地下水の状況を含む。）を勘案し、検査を行う必要がないことが明らかであると認められる場合、省略可。
13	四塩化炭素				
14	1,4-ジオキサン				
15	1,1-ジクロロエチレン				
16	シス-1,2-ジクロロエチレン				
17	ジクロロメタン				
18	テトラクロロエチレン				
19	トリクロロエチレン				
20	ベンゼン				
21	クロロ酢酸	不可		不可	不可
22	クロロホルム				
23	ジクロロ酢酸				
24	ジブromクロロメタン				
25	臭素酸				注3の通り（浄水処理にオゾン処理、消毒に次亜塩素酸を用いる場合不可。）
26	総トリハロメタン（クロロホルム、ジブromクロロメタン、プロモジクロロメタン及びプロモホルムのそれぞれの濃度の				不可
27	トリクロロ酢酸				
28	プロモジクロロメタン				
29	プロモホルム				
番号	項目名	給水栓以外での・水の採取	検査回数	検査回数の減	省略の可否
30	ホルムアルデヒド	不可	概ね3月に1回以上	不可	不可
31	亜鉛及びその化合物			注2の通り	注4の通り
32	アルミニウム及びその化合物				
33	鉄及びその化合物				
34	銅及びその化合物				
35	ナトリウム及びその化合物	一定の場合 ^{注1}			注3の通り
36	マンガン及びその化合物	不可			
37	塩化物イオン		概ね1月に1回以上	自動連続測定・記録をしている場合、概ね3月に1回以上とする	不可
38	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	一定の場合 ^{注1}	概ね3月に1回以上	注2の通り	注3の通り
39	蒸発残留物				
40	陰イオン界面活性剤				
41	(4S,4aS,8aR) - オクタヒドロ - 4,8a - ジメチルナフタレン - 4a(2H) - オール(別名2 - ジェオスミン)	不可	概ね1月に1回以上(左記の事項を産出する藻類の発生が少なく、検査を行う必要がないことが明らかである)	不可	当該事項についての過去の検査結果が基準値の2分の1を超えたことがなく、かつ、原水並びに水源及びその周辺の状況(湖沼等の停滞水源を水源とする場合は、当該基準を産出する藻類の発生状況を含む。)を勘案し、検査を行う必要
42	1,2,7,7-テトラメチルピシクロ[2,2,1]ヘプタン-2-オール(別名2-メチルイソボルネオール)				
43	非イオン界面活性剤	一定の場合 ^{注1}	概ね3月に1回以上	注2の通り	注3の通り
44	フェノール類				
45	有機物(全有機炭素(TOC)の量)	不可	概ね1月に1回以上	自動連続測定・記録をしている場合、概ね3月に1回以上とすることが可	不可
46	pH値				
47	味				
48	臭気				
49	色度				
50	濁度				

注1 一定の場合とは、送水施設及び配水施設内で濃度が上昇しないことが明らかであると認められる場合であり、この場合には浄水施設の出口、送水施設又は配水施設のいずれかにおいて採取をすることができる。
 注2 水源は水又は汚染物質を排出する施設の設置の状況等から、原水の水質が大きく変わるおそれが少ないと認められる場合(過去3年間に水源の種別、取水地点又は浄水方法を変更した場合を除く。)であって、過去3年間における当該事項についての検査結果が、基準値の5分の1以下であるときは、概ね1年に1回以上と、過去3年間における当該事項についての検査結果が、基準値の10分の1以下であるときは、概ね3年に1回以上とすることができる。
 注3 当該事項についての過去の検査結果が基準値の2分の1を超えたことがなく、かつ、原水並びに水源及びその周辺の状況を勘案し、検査を行う必要がないことが明らかであると認められる場合、省略可。
 注4 当該事項についての過去の検査結果が基準値の2分の1を超えたことがなく、かつ、原水並びに水源及びその周辺の状況並びに薬品等及び資機材等の使用状況を勘案し、検査を行う必要がないことが明らかであると認められる場合、省略可。